

再生プラスチック製品の消費拡大に関する調査

近藤, 加代子
九州大学

張, 宇航
九州大学

尾方, 義人
九州大学

久保, 直紀
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

<https://hdl.handle.net/2324/7420009>

出版情報 : Proceedings of the Annual Conference of Japan Society of Material Cycles and Waste Management, pp.177-178, 2025. Japan Society of Material Cycles and Waste Management
バージョン :
権利関係 : © 2025 Japan Society of Material Cycles and Waste Management



再生プラスチック製品の消費拡大に関する調査

○ (正) 近藤 加代子¹⁾、張 宇航¹⁾、尾方 義人¹⁾、久保 直紀²⁾

1) 九州大学 2) プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

1. はじめに

プラスチックのリサイクルの推進のためには再生プラスチック製品（以下再生プラ）の消費開拓が必須である。再生プラの消費者調査は世界的に見て主として環境面での影響要因の特定を試みているものが多いが、多様な結果となっている。再生プラは広範囲の商品に渡っており、商品種類によって影響要因の種類や強度が異なることが影響していると考えられるが、それについての研究はない。一般的なマーケティング理論の適用研究もない。さらに現在、日本では、高品質再生プラの普及が遅れていること、色選別や着色が一般的な欧州等に比べて、再生プラ製品がダークな濃い緑や黒などに色が限られるなど、特殊な事情が存在する。環境によいだけで需要創出できると想定することは難しい。本格的なプラスチック・リサイクル社会を目指して、再生プラ製品の需要創出の課題を明らかにしていく必要がある。

2. 仮設の構築

影響要因の仮説として、環境配慮行動に関する影響要因、消費者欲求に関する影響要因、およびプラスチック商品の品質等の評価を設定した。環境配慮行動について理論および実証研究は多くあり、かつ我々の研究成果を加えて影響要因を整理した(図1)。消費者欲求については、今日でも影響力の大きなマズローの「欲求5段階説」(1954)、アルダファーのE. R. G. 理論(1972)、マクレランドの三欲求理論(1976)、ケンリックの欲求ピラミッド(2010)、田中洋の「欲求オクタグラム」(2022)を検討して整理した(図2)。さらに多様な消費者欲求をとらえるために多様な趣味を設定した(図3)。これらに、プラスチック製品自体の構成要素に対する評価(品質、使いやすさ、色、デザインなど)を加えた。以上を踏まえて、具体的な設問設定を行った。

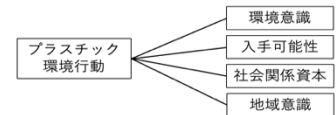


図1 プラスチックにおける環境配慮行動に関する仮説

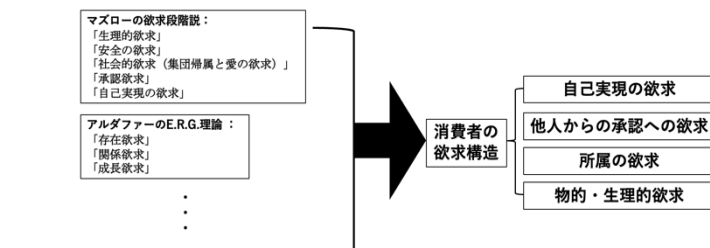


図2 四つの基本的な欲求の整理

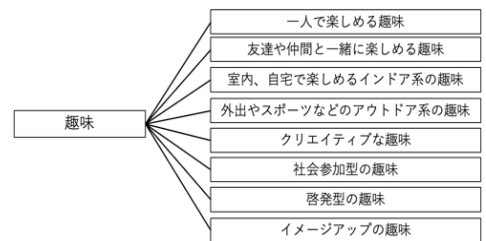


図3 趣味の整理

3. 結果と考察

2024年8月および12月に年齢性別地域の偏りを制御して全国ネットアンケートを行った(計5000人)。共通する設問設定とともに、12月は具体的にデザインされた再生プラ製品についてのコンジョイント分析を行った。調査の質問項目は個人属性、プラスチックに関する環境意識と環境行動、社会関係資本、欲求・趣味、種類の異なるプラスチック製品に関する購買意欲(通常品、再生プラ無着色品、再生プラ着色品)。商品構成要素に関する評価。コンジョイント分析は、防災ボックス(マルチボックス)について、色、素材、付加機能、価格の4つの属性を設定し、直交計画で、9パターンの商品の組み合わせを提示して、買いたい順番を回答してもらった。

3.1 通常プラ製品と再生プラ製品への購買意欲及び重視点の明確

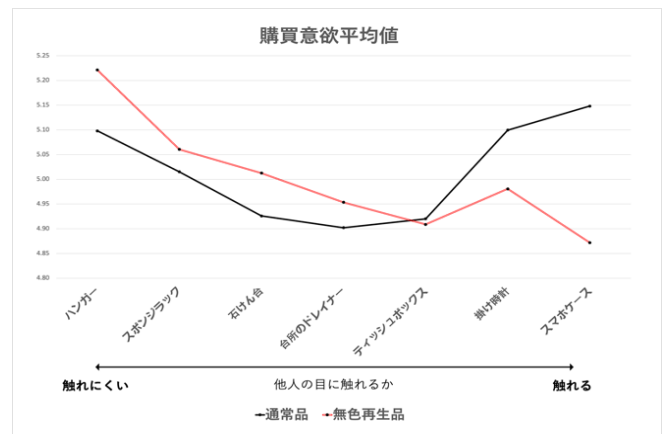


図4 プラ通常品と無色再生品への購買意欲平均値

【連絡先】〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学大学院芸術工学研究院

近藤加代子研究室 Tel:092-553-4449 FAX:092-553-4492 e-mail:kondo@design.kyushu-u.ac.jp

【キーワード】再生プラスチック製品、環境配慮行動、環境消費行動、欲求論、アンケート調査

